

2026年3月6日

報道関係者各位

バイク未来総研

バイク未来総研、第55回『リセール・プライス』ランキングを発表 『ホンダ・X-ADV』が首位獲得！ 1位から3位をアドベンチャーバイクが独占！

対象期間 2025年9月～2025年11月

バイク業界のよりよい未来を見据えて、バイクの新しい価値を発掘し広く社会に発信することを目的に活動を行うバイク未来総研(所在地:東京都世田谷区、運営:株式会社バイク王&カンパニー)は、2025年9月～2025年11月の期間を対象に、「再び売却した際、高値の付くバイク」＝「“リセール・プライス”の高いバイク」の上位10車種をバイク王が運営するバイク情報サイト『Bike Life Lab』に発表いたしました。

『“リセール・プライス”の高いバイク』は、需要の高いバイク、つまり『人気のあるバイク』と言い換えることもできます。55回目となる今回は、「ホンダ・X-ADV」が首位に輝きました。

◇『ホンダ・X-ADV』が首位獲得！1位から3位をアドベンチャーバイクが独占！



※本リリースの調査結果を転載される際は、必ず「[バイク未来総研調べ](https://www.8190.jp/bikelifelab/bikefuture/resale-ranking/newest/) (<https://www.8190.jp/bikelifelab/bikefuture/resale-ranking/newest/>) 」とご明記ください。

■ 総合ランキング

順位	メーカー・車種	リセール・プライス
1	ホンダ・X-ADV	113.2 Pt
2	ホンダ・CRF1100L Africa Twin Dual Clutch Transmission	106.5 Pt
3	ホンダ・CRF1100L Africa Twin Adventure Sports ES DCT	99.6 Pt
4	ヤマハ・MT-09 SP ABS	98.1 Pt
5	ホンダ・ADV160	96.4 Pt
6	ヤマハ・MT-09 ABS	93.9 Pt
7	ホンダ・スーパーカブ C125	92.5 Pt
8	カワサキ・Z900RS SE	92.4 Pt
9	ホンダ・PCX125	89.3 Pt
10	カワサキ・ZX-10R	85.8 Pt

◇2025年9月～2025年11月

55回目となる『リセール・プライス』ランキングは、『ホンダ・X-ADV』が首位に輝きました。

■ 『ホンダ・X-ADV』が首位獲得！

2022年7月発表のランキングで初登場となったX-ADVは、ビッグスクーターとアドベンチャーの要素を掛け合わせたデザインが特徴の車両です。

街乗り・ツーリング・アウトドアレジャーと、オールラウンドな性能を持つことから、国内に留まらず海外からの需要も非常に高く、2位の『ホンダ・CRF1100L Africa Twin Dual Clutch Transmission』とは約7ポイントの差をつけました。

■ 2位3位にはホンダ・CRF1100L Africa Twin シリーズがランクイン



2位にはホンダ・CRF1100L Africa Twin Dual Clutch Transmission がランクイン。

アフリカツインシリーズはホンダの大型アドベンチャーとして長年人気のモデルであり、オンロードはもちろん未舗装路での走破性も高い車両です。本機は長距離ツーリングにも快適なデュアルクラッチトランスミッションを搭載し、欧州を中心に世界各国でも高い人気を集めています。

3位のホンダ・CRF1100L Africa Twin Adventure Sports ES DCTは電子制御サスペンションを搭載したモデルでライディングモードに合わせて特性が変化するほか、乗車人数や荷物の有無などを詳細に設定できる等、乗りやすく快適なツーリングが実現できるといった評価もあり、中古市場で高い人気を維持しています。

■ 4位にヤマハ・MT-09 SP ABS (RN88J型) がランクイン



ヤマハ・MT-09 シリーズは水冷並列3気筒エンジンを搭載したネイキッドバイクで車両重量が190kg台と大型バイクの中では比較的軽量なモデルです。加速が良く、取り回しもしやすいため、街乗りでもツーリングでも活躍できることから高い人気を誇ります。

2024年の仕様変更では、ヘッドライトをはじめとした外観スタイルの変更を受け、クルーズコントロールやバックスリップレギュレーターなどの電子制御システムも新たに導入されました。メーターも5インチサイズのカラー液晶となり、視認性が向上しています。

今回4位にランクインしたSPモデルは、オーリンズ製のサスペンションやブレンボ製のブレーキキャリパー等を標準装備した上位モデルで、発売から1年ほど経過して中古バイク市場での流通量が増加しはじめたこともあり、中古での購入を検討するユーザーが増加している背景も感じ取れます。

年間約10万台を取り扱うバイク王では人気のある良質な在庫を確保し、豊富な車種・車両を全国のバイク王で販売しております。今後も国内ライダーの皆さまの期待にお応えしてまいります。アドベンチャーモデル4車種が5位以内にランクインした第55回『リセール・プライス』ランキング。次回のランキングの動きにもご注目ください。

※排気量別ランキングは、バイク王が運営するバイク情報サイト『Bike Life Lab』内にある、バイク未来総研の記事に掲載しております。

<https://www.8190.jp/bikelifelab/bikefuture/resale-ranking/newest/>

■ 『リセール・プライス』とは

バイクを再び売却(=リセール)するときの価格(=プライス)を指します。

2026年2月現在、新車で購入が可能なバイクを対象とし、業者間オークションで売却した際の落札金額の平均値と新車販売価格を基に『リセール・プライス』をポイント化。ポイント数が高いほど、『リセール・プライス』が高いと想定できます。

本指標は、中古バイクの年間取扱台数約 10 万台の『バイク王』が取り扱うデータを基に、バイク未来総研が独自に集計したものであり、バイクユーザーが新車あるいは中古バイクを購入する際の参考情報として活用されることを目的としています。

■ 算定基準

- ・国内主要 4 メーカーが、国内で販売しているバイク(2026 年 2 月末現在・逆輸入車を除く)
- ・新車販売価格は 2026 年 2 月末現在の価格を基準。カラー等により価格が複数ある場合は、最安値を基準に算定
- ・モデルチェンジが実施された場合は、最新モデルのみを対象とする
- ・期間内に、バイク未来総研独自の規定台数に達する流通があるバイクを対象とする

■ バイク未来総研所長 宮城光のココがポイント

依然としてホンダ・アドベンチャ&ツーリング系マシンが上位存在感を出している。走る場所を選ばず、通勤・街乗り・ロングツーリングまでこなせる印象があり、多用途性が評価されるのだろう。快適街乗り+ロング適性の融合で、さらに再販価値が高まっている。

一方、MT-09 などのミドルサイズ・スポーツネイキッドも高性能ながらコストパフォーマンスに優れており、合理性を求めるユーザーにも支持率が高いと言える。若手から中堅層の間違いないマシンチョイスだろう。

スーパーカブや PCX125 は、移動手段としての間違いの無い選択肢。特にホンダというブランドであれば、価値が落ちにくいという傾向が読み取れる。

少し落ち着いて来たのはレトロスポーツ系の Z900RS か。このセグメントには CB1000F の発表もあり、購買層は様子見とも取れるタイミングだ。所有満足度の高いマシンだけに安定期に入ったとも見える。

トップ 10 に何とか食い込んだのは ZX-10R、人気は有るものの流通も比較的少なく、購入層も限定的。再販価格ではアドベンチャーに太刀打ちできないが、SS モデルには一定層のファンがいるのも事実。国産メーカーの施策に期待したところだ。



【バイク未来総研 について】

2022 年 3 月にバイク業界のよりよい未来を考え、新しい価値を調査し、分析した内容を広く社会に発信することを目的に発足しました。

国内外のレースで輝かしい成績を挙げ現在はモータージャーナリストのほか多方面で活躍する宮城光氏を所長に向かえ、バイクライフの楽しさやバイク王が持つバイクに関する独自データ分析などの情報発信に加え、ライダーやバイク業界がこれから描く「未来」に切り込んだコンテンツを順次発信します。



本リリースに関するお問い合わせ先

株式会社バイク王&カンパニー 東京都世田谷区若林 3 丁目 15-4
メディアプロモーションチーム 担当：大倉、萩原
E-mail: prior@8190.co.jp

その他取材に関するお問い合わせ先

バイク王では、バイクに関する取材を随時受け付けております。
取材受付フォーム: <https://www.8190.jp/contact/media/>